



写真でみる 50年のあゆみ ⑩

内職では安い手間賃しか得られなかった（ラケットの糸ばり1個5円、くすかご編み1個25円、運動靴ミシンかけ1個90銭、竹細工1個3円、荷札の針金通し100枚10円など）。



女性の働く権利と平等をめざして(上)

1960年代は安い手間賃で内職をしている人が多く、66年社会党が内職労働の改善をはかるため「家内労働法案」を出し、4年後に実現しました。

同時に外で働く女性も増えて、「ポストの数ほど保育所を」という運動が起きていました。67年に当選したみのべ都知事はゼロ歳児保育を実現しました。しかしその数は少なく育児休業の実現も課題でした。68年全電通は育児休職制度をかちとりました。

1972年施行の「勤労婦人福祉法」では「妊娠中及び出産後の健康管理」と「育児休業」について事業主に努力を求めましたが、子育て後、仕事に復帰する主婦＝パートと位置づけしていました。